

2019年5月5日(日) 説教 黄昌性牧師 第一ヨハネ 5:1-12

礼拝はオーケストラのようである。オーケストラの指揮者は神様、我々はその指揮に合わせて音色を奏でる奏者であり、礼拝において聖霊が伴いハーモニーが奏でられる。我々は共存し互いに愛し合う者たちである。礼拝においてともに喜ぶ者たちである。南町田教会は新しく礼拝堂を建築した。この建物が礼拝する場になるためには、礼拝において我々が平和の内に本日の聖書箇所のある「イエスはメシアであると告白する者たち(1節)」の群れとなることである。日本は本年5月1日より新元号「令和」の時代に入ったが、「令和」を英訳すると「Beautiful Harmony」あるいは「Beautiful Order」となる。「美しいハーモニー」、「美しい秩序」である。「和」は「平和」の「和」であり、「Peace」である。美しい「Harmony」と美しい「Peace」と訳すことができよう。604年聖徳太子が制定した17条の憲法の第一条は「和を以て貴しとなす」で、調和を大切にすることを教えた。新しい時代の元号「令和」は、美しいハーモニー、美しい秩序と平和の内に新しい時代を迎えようという、良いものであると解釈することができるといえよう。

「メシア」はギリシャ語で「クリストス」。メシアには固有名詞としての用いられ方がありその一つは「イエスはメシアである」という用いられ方である。ドイツの神学者モルトマンはメシアについて「メシア的時は今である」という言葉を残した。これは「神の時は今である」ということであり、イエス・キリストは我々のところに聖霊とともに来られるということである。今朝の礼拝でも信仰告白したとおり我々は「われらの救い主イエス・キリストを

信ず」と告白しているが、歴史的にさかのぼりペトロの時代にもこの信仰告白がなされている。マタイ 16 : 16「シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。」イエスをメシアであると告白する者たちは互いに兄弟と呼び合い、礼拝においてともに呼吸しハーモニーを奏でる。もし自分の上司の家族が亡くなり、義理で葬儀に出席した人がいるとして、その人の心にはもしかしたら「なんで自分がこのために時間を割かなければならないのか」という不満があることもあろう。その思いはその人の醸し出す雰囲気により周囲の人が感じるものである。もし礼拝にそのような思いをもって出席する者たちがあるならば、そこに呼吸のあったハーモニーは奏でられない。礼拝に来て「今日はあの人は来ている、よかった。けれどあの人は来ていない。お元気であるだろうか」と兄弟に思いをはせることもハーモニーであろう。

Iヨハネ 5 : 2「掟」を別の訳の聖書では「戒め」あるいは「命令」と記している。また「難しいもの」を「重荷」と訳す聖書もある。自分がキリストを信じる群れに入り重荷を負うこと、これが互いに愛し合うことである。十戒が唱える掟を二つに要約すると①心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして主(神、キリスト)を愛すること、②隣人を自分のように愛することである。マルコ 12 : 29-31「29:マルコによる福音書/ 12 章 29 節

「イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 第二の掟は、これである。『隣人を自分のよう

に愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」

「イエスは我々の主である」と唱える美しい秩序 (Beautiful Orde) ある礼拝をささげることが大切である。なぜなら、神様は人の呼吸を聞いておられるからである。日常生活の中で神様を愛することと隣人を愛することが一つになっているべきである。「掟」「命令」とあるのは、人間はそもそも罪を犯すものであるから、神が言われたことを聞かないだろうという意味であるかもしれない。確かに、神を愛さない者は神に従わないであろう。私たちは、イエス(神)を愛する者はイエス(神)に愛されている、つまり Give and Take の関係がキリストと我々の間にあることを覚えるべきである。

十戒には4つの神に関する掟と6つの人間に関する掟がある。それらは「神を愛すること」と「隣人を愛すること」に要約できる。

どのような人が天の国に入ることができるか。マタイ 7:21「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。」

Iヨハネ 5:4「世に打ち勝つ」とあるが、「世」とは「自分自身」のことである。Overcome の言葉の意味の通りに、どんな困難の上にも行くこと、どんな試練にあっても越えていく、世を越えていく、神の御心に背くものや障害となるもの、ことを越えていくことである。罪と死の支配に打ち勝つためには真の礼拝、聖霊がとどまるところに来て、自分のため、周りの人々のために礼拝をささげることである。ひと月に一回でも構わない。そして礼拝でオー

ケストラの奏者のように音を奏でるのである。キリストは人間はすべて罪人であることをご存知であり、人間を憐れままれた。そのキリストを礼拝するため、我々は罪から自分の身を清め、イエス・キリストの十字架と復活の良き香りがあふれるよう、オーケストラの一奏者として協力することである。

ヨハネ 16 : 33「わたしは既に世に勝っている。」自分自身が世に属しているか、キリストの霊に属しているか自問することである。

ヨハネ 3 : 5「イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」キリストの霊に属するものへと生まれ変わるため、自分自身による告白が必要である。「私には水と(キリストの)血と(キリストの)霊が必要である」という告白である。

ヨハネによる福音書 3 : 16-17「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に

ローマ 1 : 4「聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。」

神の導きにより生まれた我々は、十字架の光の中に、その場にふさわしい、キリストにふさわしい自分自身の姿を思い描きたいのである。今日は 5 月 5 日子供の日。神様の子供としてある我々の姿を考えたい。御言葉を聞く前に自分自身を整えたいのである（土曜には礼拝のため神に祈り、日曜礼拝 5 分前に心を整え礼拝の中で精いっぱい讃美歌を歌い、祈るこ

と)。イエス・キリストについて証しをしなければ神の国に入ることができないと聖書は語っている。イエス・キリストが神の子であることを証しすることは過去のことではない。まだ終わっていないのである。